



みんな、お隣さん1年生!

第15回のコンシェルジュ

コモンシティ住吉の杜のみなさん

真新しい家、真新しい街、そして真新しいお隣さん。
全国各地で生まれている分譲住宅地のひとつで開催された今回の「隣人祭り」。
ゼロスタートのコミュニティづくりに、一役買っていました!

photographs by Masaya Tanaka

いっしょに
おおきく
なるんだね!

10月、うららかな秋晴れの土曜日。第1回の「隣人祭り」が開かれたのは長崎にある「コモンシティ住吉の杜」。小高い丘の上に広がる街の一角、長崎の街を一望する公園に、手づくりのお惣菜やケーキを手にした住民たちが続々と集まってきた。「コモンシティ住吉の杜」は昨年から分譲が始まった約230区画の新しい住宅地。現在、入居している約40世帯も「お隣さん」になってまだ日が浅く、自治会の発足をはじめ、住民同士のつながりが模索されている。「以前は集合住宅に住んでいましたが、会話があるのは隣の部屋くらい。廊下で挨拶しても目を逸らされたり(笑)」と住民のひとり、畑二郎さん。小さな子どもがいるので、隣近所と交流のある環境で、のびのび育てたいと思っていました。隣人祭りの提案があったとき、反対の声はまったくなく自然に開催が決まって。交通の便や眺望など立地の良さが選んだ場所ですが、また違





午前中に行われたガーデニング講座では、庭の植栽の手入れ方法をプロが伝授。作業中、木のうえに鳥の巣を発見したり、公園に記念の植樹をしたり。午後は、子どもたちのために公園に「らくがきコーナー」を特設。家族みんなで楽しい時間を過ごしました。



ふれあった記憶が、街への愛着を育んでいく

った意味で、ここに住むことを決めてよかつたなあと思えましたね。」
今回の「隣人祭り」開催を最初に提案したのは、「コモンシティ住吉の杜」を販売管理する積水ハウス長崎支店の深井久之さん。「来春の自治会設立に向けての準備をお手伝いしているときに「隣人祭り」の活動を知り、このタイミングなら住民のみなさんに喜んでいただけるのでは、と思ったんです」。

とはいえ、この活動の主体はあくまで住民。「みなさんが自発的に参加し、楽しんでいただけるように食事は持ち寄り。案内もチラシ程度にして、気軽にご参加いただけるよう意識しました」。当日は街の敷地内の公園で午前中、ガーデニング講座が開かれ、午後から「隣人祭り」が開催された。手づくりのお惣菜やケーキを手にした大人たち、一緒に遊ぶためのオモチャを持ってき



長崎特有の傾斜地に、階段や公園などコモンスペースが機能的に配置された「コモンシティ住吉の杜」。空が近く感じられる、緑豊かな街並が印象的です。

た子どもたちがやってくると、会場のあちらこちらで自然に、あいさつや会話が始まる。開催時刻には、住民の約3分の2にあたる70名近い人たちの顔がテーブルの両側に並んだ。「ほんとうに集まっていただけなのか、正直不安だったんですが（笑）。いやよかった」と深井さんも嬉しそうだ。

て、何とはなく話をするのっていいですよ。大人同士がリラックスしていると、ほら、子どもたちも安心して一緒に遊ぶんです。僕はもともと長崎の人間ではないので、地元の人たちとやっていけるか不安もありましたが、今は引越越してきてよかつたなあと思います」。

そんな畑さんの話を、うれしそうに聞いている地元出身の人たち。笑顔が笑顔と呼ぶ、幸せな時間に乾杯。



手作りのサラダやピザ、パウンドケーキなど、気取らない「我が家の味」がざらりと並んだテーブル。敷地内の公園なので、お皿のまま家から持参される人も。「よかつたらどうぞ」とおすそわけしたり、料理をまんかになに話弾みます。「向こう三軒両隣、お互いの顔が見える関係がいいですね」と畑二郎さんと1歳になる美沙季ちゃん（写真左下）。

la fête des voisins 隣人祭り

分譲住宅地「隣人祭り」 第2弾は大分で!

長崎での第1弾に引き続き11月、大分でも新しい分譲住宅地で「隣人祭り」が開催されます。共有広場を取り囲むように家が建つという特徴的な環境を生かした「隣人祭り」。そこから街のデザインとコミュニティの関係も見えてくるのでは。乞うご期待!

コンシェルジュ募集中! 「隣人祭り」日本支部

〒104-0045
東京都中央区築地7-12-7
築地FTSビル5階
一般社団法人ロハスクラブ内
tel.03-3549-1865
fax.03-3549-1013
<http://www.rinjinmatsuri.jp/>